

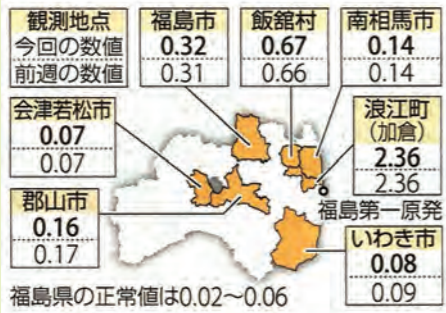
ウクライナで調べた「空間線量・健康被害」

① 空間線量

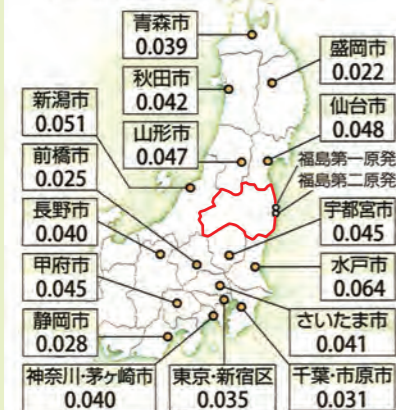


(作成：槌田博)

2013.10.12 付読売新聞



11日の放射線量(午前9時)
※単位はマイクロシーベルト毎時。●は測定地点。原子力規制委員会などによる



② 足や頭の「痛み」を調査

「頭痛がする」と手を挙げた子と親



地域⑦

ノヴィ・マルチノヴィチ村

◇ 10年、11年生 (15~17歳) と参加した父母 計25人に健康状態を聞く

足が痛い人	1人
頭が痛い人	18人
自律神経失調症の人	5人
鼻血が出る人	13人
風邪をひきやすい人	12人
風邪でよく学校を休む人	8人
問題がない人	0人



地域⑧

ビシヤニツツア村学校 9月28日 第1~第7学年 対象生徒45人

足のどこかが痛い	頭痛				のどが痛い	痛みなし
	足首	ひざ	ひざ下筋肉	太もも		
62%					47%	36%
28	27	10	10	2	21	16

地域⑨

モジャリ村学校 9月28日 第1~第6学年 対象生徒32人

足のどこかが痛い	頭痛				のどが痛い	痛みなし
	足首	ひざ	ひざ下筋肉	太もも		
72%					81%	59%
23	8	13	8	9	26	19

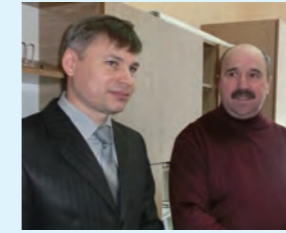
地域⑩



コヴァリン村学校

③ 非汚染地域で子どもの健康が悪化

地域⑥ オブシュキ村



(左) アレクサンドル・デルカーチ校長

校長 この地域の子ども健康は、全体的に悪くなっています。10年前、5年前と比べると今の方が健康状態は良くありません。

脊椎、心臓、血管、頭が痛い場合もあります。今の子はパソコンに夢中になっているので、あまり活発ではないといわれます。でも、子どもの健康の悪化は事実です。

子どもたちは弱く生まれている

【ナタリア・ボルゼンコ校長に聞く】

——チェルノブイリ事故の前と後でこの村で子どもの健康状況に違いがありますか？

校長 やはりあります。子どもたちは弱く生まれます。弱いので、学校では、もっと健康的に考えています。

ただし、みんなが弱くなったとはいえません。

自律神経失調症の子どもが増えました。何%増えているかとは言えませんが、前と比べると、そういう訴えをする子どもが増えたという感じです。

地域② ドハマ村の学校



【ロゾヴァ市議会が行ったアンケート調査結果】 地域②

2013年2月実施、対象はドマハ村を含む一般教育学校の8~11年生(総数1293人)

質問事項	1.ない	2.まれに	3.時々ある	4.よくある	5.いつも
足が痛い場合がありますか	566	496	194	30	7
頭痛	44%	38%	15%	2%	1%
頭が痛い場合がありますか	216	585	343	125	24
喉が痛い場合がありますか	17%	45%	26%	10%	2%
よく風邪をひきますか	209	585	392	99	9
鼻血が出ることはありますか	16%	45%	30%	8%	1%
自律神経、血管関係の疾患は？	86	444	586	149	28
風邪でよく学校を休みますか	7%	34%	45%	12%	2%
鼻血が出ることはありますか	895	253	124	15	6
自律神経、血管関係の疾患は？	69%	20%	10%	1%	0%
風邪でよく学校を休みますか	1063	119	73	23	15
鼻血が出ることはありますか	82%	9%	6%	2%	1%
風邪でよく学校を休みますか	85	525	528	141	14
鼻血が出ることはありますか	6%	41%	41%	11%	1%